

## (6) 北 陸



北陸地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)。

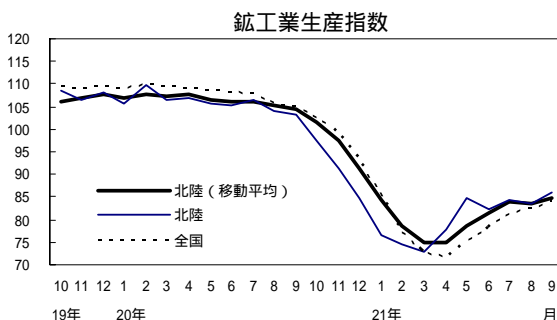
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 8 月)	今回 (平成 21 年 11 月)	
景況判断	下げ止まりつつある	下げ止まっている	
鉱工業生産	下げ止まっている	緩やかに持ち直している	
個人消費	緩やかに減少	おおむね横ばい	
雇用情勢	急速に悪化	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、主力の建設機械が低迷しているものの、自動車向け金属工作機械や、中国向け繊維機械が増加したことから、全体でも増加している。電子部品・デバイス、デジタル家電や携帯電話向けに、電子部品や半導体素子が増加している。化学は、医薬品を中心に減少している。金属製品は、関東地方の工場からの生産移管があったため、生産水準が上昇したものの、足もとでは、需要の減退から建築用金属製品を中心に減少している。繊維は、衣料向け繊維が低調に推移しているものの、自動車内装向け等の非衣料繊維が増加しているため、全体では増加している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

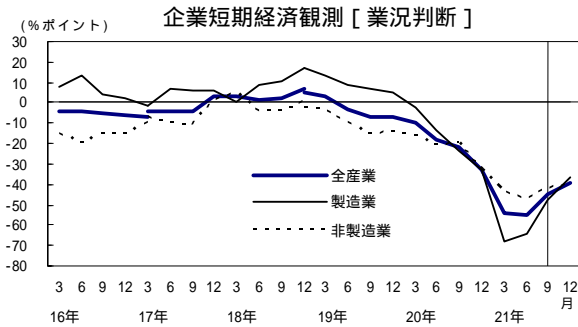
### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	16.2	7.6	15.0	-	-
電子部品・デバイス	15.8	57.5	10.6	-	-
化学	14.5	9.6	3.9	-	-
金属製品	9.2	0.5	2.4	-	-
繊維	8.5	5.2	2.0	-	-
鉱工業	100.0	9.0	3.9	-	-

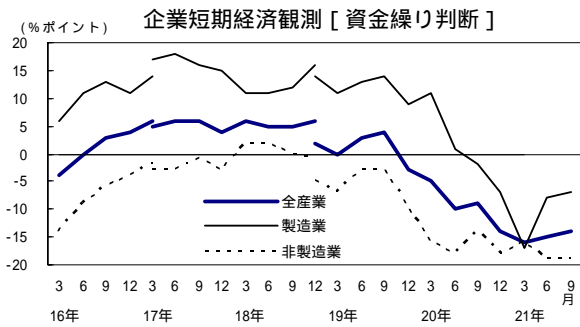
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 7~9月期は速報値。  
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

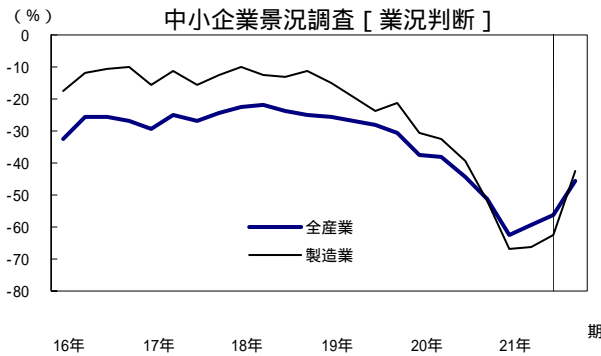
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。  
中部地区。

#### 景気ウォッチャー調査(9月)[企業動向関連(現状)]

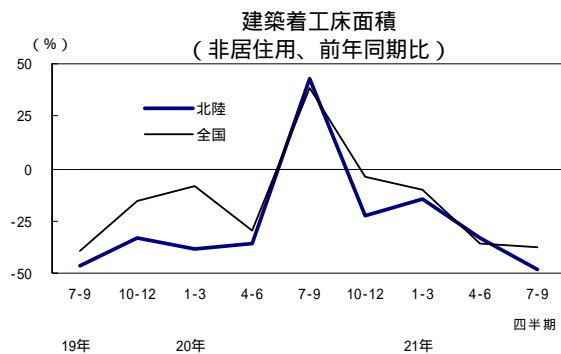
「生産量は回復の兆しが見られるが、コストダウン要請が厳しい。国内生産で要請に応じきれない場合は、全て海外生産になっている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	24.3	32.1 (0.2)
製造業	25.7	33.3 (1.1)
非製造業	20.9	29.3 (1.9)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

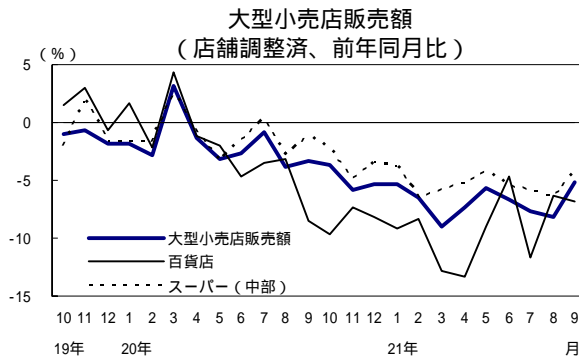
### 大型小売店販売額

百貨店は、7月は、6月の夏物セールの前倒しによる反動減や天候不順により、衣料品、飲食料品、身の回り品ともに前年比低下幅が拡大した。8月は、食品売り場等が観光客で賑わい、飲食料品、身の回り品が好調だったものの、主力の衣料品が不調で、引き続き前年を下回った。9月は、大型連休中の催事の好調により、飲食料品が前年比プラスに転じたものの、衣料品が低調に推移し前年を下回った。

スーパーは、衣料品が不調だったほか、飲食料品も、消費者の生活防衛意識が依然として高いことや、天候不順による野菜価格高騰による買い控えもみられ、引き続き低調に推移した。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「宿泊単価の安い企画商品は売れるが、通常料金の企画や高額企画は売れ行きが悪い(観光型旅館)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



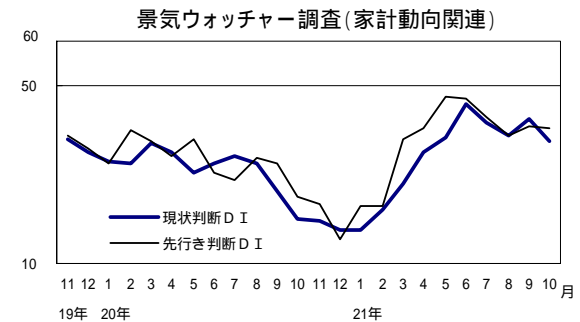
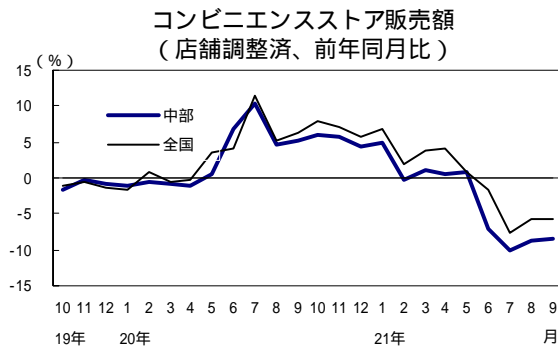
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	5.1	6.9	6.5	7.1
百貨店	8.3	10.2	9.0	8.6
スーパー	3.6	5.2	5.0	5.6
乗用車	15.4	24.2	18.7	2.1
景気ウォッチャー	18.9	22.4	39.7	40.9

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

スーパーは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

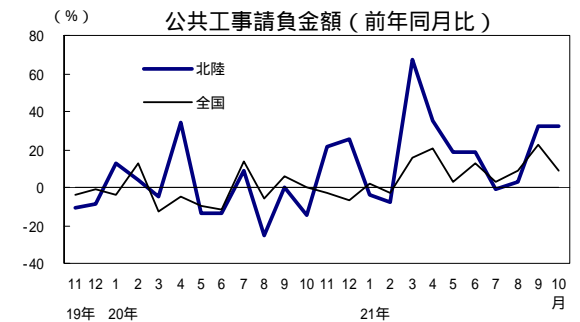
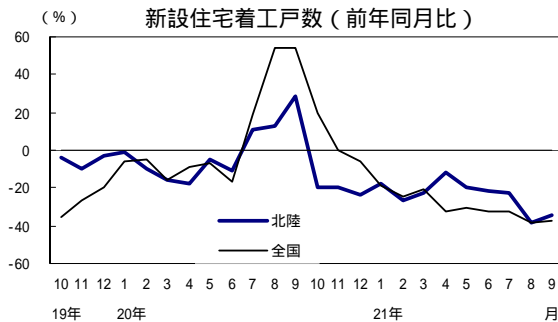
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

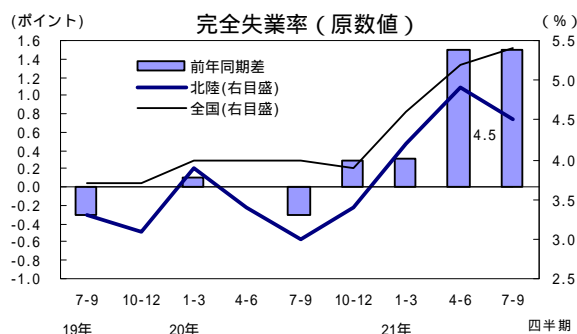
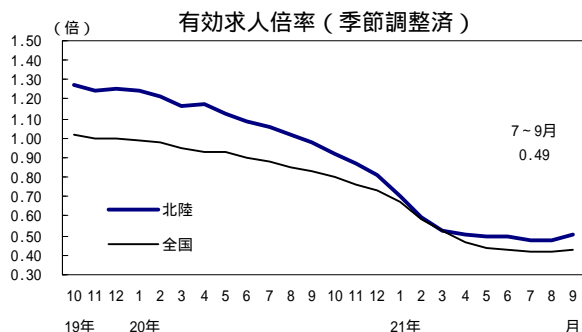


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

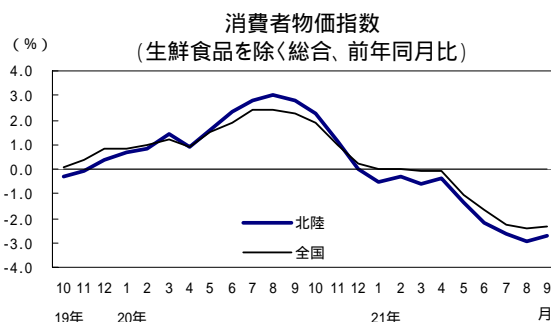
「求人数は微増を続けているが、相変わらず製造業からの求人は低調である。国のふるさと雇用再生特別交付金等による求人が増加しているだけである(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数	133	117	103	107	45
(前年比)	47.8	13.6	12.0	1.8	2.2
負債総額	334	565	209	421	82
(前年比)	27.3	12.6	33.9	48.5	46.6



景気ウォッチャー調査 (9月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・販売高は全体では前年を上回った。国内は今一步の感があるものの、中国旅行など海外でカバーができていない(旅行代理店)。

<先行き>

・医薬品業界をはじめ一部で設備投資の動きが見られるが、製造業全体の業況は円高の影響など回復の足取りが重い展開となっている(金融業)。

景気ウォッチャー調査(合計)

